



おばた 和仁

■おばた和仁(かずひと)

〒181-0012 三鷹市野崎1-1-1
三鷹市役所内立憲民主緑風会
TEL 080-3046-0741(おばた)
Eメール info@obatakazuhito.tokyo
HP <https://obatakazuhito.tokyo>



三鷹市の公共施設マネジメントについて

三鷹市では新都市再生ビジョンを策定して、今後の公共施設の建替えの優先順位、維持・管理の在り方などが示されています。今後、老朽化してくる市内公共施設を建て替えると、おおよそ2,000億円の予算が必要となると言われています。こうした莫大な経費の圧縮のために、先進自治体等では施設の複合化や総量規制など、様々な取り組みを行っています。

現在のところ、三鷹市では、施設の長寿命化によって一斉に老朽化する施設の建替え時期を適切にずらし、無理のない建て替え計画を策定するとしていますが、複合化や総量規制についてはこれからの検討課題であると認識しています。私は、その前段階として、各施設の市民利用度について、全庁的に調査・検討を行うことが重要と考えます。但し、利用度の少ない施設は、無くしてしまうという発想からではなく、市民の利用度の少ない施設はどうしたら利用度を上げることができるかという発想をもって、調査・検討に取り組むことが重要であるとも思います。

例えば、ICT 活用が進む時代に、市内図書館(現在、利用頻度は少ない)は複数必要なのでしょうか。市民も利用できる中学校の図書館整備やコミュニティセンター内の図書館を充実(図書照会システムの充実など)させ、市民が気軽に利用できる環境を整える施策も重要と思います。

おばた 和仁はこんな議員です♪

◆プロフィール

■市民の声を大切に

よく、話しやすいと言われます。なにごとにも誠実に対応します！市政への要望など、お気軽にご相談ください。

■損害保険会社で豊富な経験

日本各地で、保険を通じたまちづくりに関わりました。民間企業の発想で、三鷹の課題に取り組みます。

■社会人向け大学院に在学

専門性やエビデンスに裏打ちされた政策を提案します。

■三鷹生まれ、三鷹育ち

私の原点は三鷹ですが、さまざまな地方で生活したことで、三鷹を客観的に見ることができます。

■現在: 三鷹市議会議員2期目、まちづくり環境委員会(副委員長)など
三鷹ハンディキャブでボランティア活動
東京大学大学院在学(都市工学専攻/まちづくり研究室)

■これまで: 三鷹幼稚園、南浦小、三鷹一中、都立国立高校、横浜国大経済学部、元東京海上日動社員、

■趣味: 水泳、テニス、ドラム演奏、社交ダンスなど



立憲民主党 立憲民主編集部 号外

〒101-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1
電話 03-3595-9988 (代表)

10/1 から井口・深大寺でも AI デマンド実証運行！

大沢地区で行われていた実証運行が、井口・深大寺地区にも拡大されました。エリア内の乗車料金は100円です。市役所、元気創造プラザ等へのエリア外利用は、300円ですが、高齢者割引(申請手続きが必要です)、障がい者割引を利用することで、100円引きとなります。現在、1日当たり50名程度の乗車数と聞いています。まだまだ少ないように思います。

■運行曜日 月曜日から土曜日 午前8時から午後6時まで

■(日・祝日は運休)予約受付 乗車希望日の1カ月前から乗車直前まで

■予約専用電話 0422-34-3055(月~土 7:30~18:00)

一方、井の頭地区で実証運行されていた時速20kmの小型EV車両は、8月末にサイドブレーキなどに不具合が発生し、一時運休しました。このため、10/1から予定していた井の頭公園駅までの運行ルート追加は、一旦取りやめとなりました。1日当たりの乗車人数はわずか10人程度と聞いています。井の頭地区でも、デマンドバスでの実証運行を検討すべきです。

9/1~9/29 まで三鷹市議会定例会が開催されました！

今回の一般質問は、大規模地震対策を取りあげました。大地震の際の避難所(小・中学校、コミュニティセンター等)の運営は、避難された市民、とりわけ各町内会等が中心となります。しかし、こうした周知が徹底されているとは言えません。避難所マニュアルに基づいた防災訓練や町内会等での避難所運営マニュアル勉強会の必要性を訴えました。

さて、関東大震災の1年後に国立天文台が三鷹にやって来ました。国立天文台周辺まちづくり特別委員会がありました。このまちづくりは、国立天文台側が、運営費等の捻出のため国立天文台北側ゾーンを民間に売却するという話から始まっています。市は、この地の自然を守るため、民間には土地を売却せず、市への売却もしくは定期借地を申し入れました。こうした経緯から、自然を守ることを大前提に、当該土地の有効活用を検討していくことが課題となります。当委員会で、市長、教育長より、羽沢小学校を北側ゾーンに移転させ、大沢台小学校、7中との小中一貫校(義務教育学校)の実現、西部図書館移設、羽沢小学校の跡地にスーパー誘致、カフェ等の検討、大沢台小学校の跡地には、不登校児童等のための学校設置検討などの案が示されました。

重点5政策「住みたくなるまち・三鷹」に全力で取り組みます！

①すべての人が主役となるまち・三鷹

三鷹市自治基本条例に基づいたまちづくり。スクールコミュニティの基盤となる小学校単位の地域運営組織(原則、NPO法人化、近隣住民参加)を全市に展開し、新たなコミュニティ創造(学校3部制)に挑戦します。

②子どもから高齢者まで、みんなが安心のまち・三鷹

人権基本条例(仮称)に基づいたまちづくり。通学路のゾーン30+化、大規模地震対策や地域福祉コーディネーター(現在3名体制)のスピーディな全市展開(小学校区に1名配置で15名体制)にも取り組みます。

③子どもを守り育てるまち・三鷹

画一的な授業を見直し、主体的に学ぶ力を育み個別最適な学びを実現します。また、いじめのない学校に全力で取り組みます。学童保育と地域子どもクラブの一体化、幼稚園・保育所の質の向上にも取り組みます。

④すべての人が活動的になるまち・三鷹

デマンドバスとLRT(次世代型路面電車)誘致をパッケージに、市内公共交通網を充実させマイカーが不要な便利なまちにします。また、空き家の活用により特色ある店舗を誘致し、市内商業を活性化します。

⑤持続可能なまち・三鷹

現在の緑と水の環境を守ります。また、広域連携による安全な食料自給の確立、2050年カーボンニュートラルを目指した再生可能エネルギーの利活用推進に挑戦します。